

じゅもん

「パパ、きらーい。あっちいって。」

「パパ、いやー。こっちこないで。」

「なんだとー。」

と、いいながらパパはガハガハわらって、わたしをだっこして、ほっぺたにひげをじよ
じよりあててきます。わたしは、かおがいたいし、パパのちからもつよいので、

「ぎゃー。たすけてー。」

と、いって、にげます。すると、こんどはひよいっとわたしをくうちゅうにほうりなげて、
ガシツとつかまえるのです。これがたのしくてしかたがありません。

だから、わたしはパパにあそんでほしいとき、このじゅもんをとなえます。

パパは、はやおきがとくいです。かいぎやしごとでよるどんなにおそくなっても、ぜつ
たいにねぼうしません。さつきまで、パンツいっちょうであるいて、ママにおこられて
いたのに、いつのまにか、きりつときがえて、かいしゃにでかけます。わたしは、かっこ
いいなあとおもいながら、いってらっしやいをします。

パパには、よなかにでんわがかかってくることもあります。たいていは、しごとのとう
ちやくじかんのかくにんやしじをするやくそくをしていたもので、すぐにおわります。

だけど、でんわがながいときは、なにかたいへんなことがおきたときです。メモをとったり、かんがえこんだり、ほかにでんわをかけたたり、どうじにいろんなことをすごいはやさでします。そのときのおおは、ちよっとおこっているようにみえます。でも、ほんとうにおこったときのおおはもつとこわいので、しんけんなおおなんだとおもいます。たいへんなことがかいつつすると、パパはいつものパパにもどります。

ゆうごはんをたべたあと、いっしょにテレビをみているとき、ぐうぐうといびきがきこえることがあります。さつきまでおきていたのに・・・

むてきにみえるパパだけど、つかれることもあるんだなとおもいました。

おふろのじかんになると、パパはげんきにふっかつして、おにいちちゃんとわたしをりようてにかかえておふろばまでつれていってくれます。わたしは、パパのおおきなせなかをごしごとちからをこめてあらいます。

バスタオルでガシガシふかれていますとき、ちよっぴりいたいけど、たのしいきぶんです。

そして、ねるまえにもあのじゅもんをとなえます。

「ぎやははははは。」

わたしたちはおおわらしいします。わたしはなんどもなんどもじゅもんをとなえます。じゅもんではそういつてないけれど、ほんとうは、パパのことがだいすきです。

いつもありがとう。

評価のポイント

お父さんの人物像が上手に書けている。働くことの大変さや尊敬する心が伝わってくる。